

国際会長 (IP) Edward Ong (シンガポール)

“Faith, Love, Action” 「信念、愛、行動」

会長 齋藤 宙也
副会長 古田 和彦
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 古田 和彦

アジア太平洋地域会長 (AP) 田上 正 (熊本むさし)

“Act now with faith and love!”

「信念と愛を持って行動しよう！」

東日本区理事 (RD) 山下 真 (十勝)

「ワイズらしさの再発見」

“Rediscovering Y's Uniqueness”

かながわ部長 (DG) 兵藤 芳朗 (鎌倉)

「共に歩み 交流を深め 部の「絆」を強めよう」

横浜クラブ会長 (CP) 齋藤 宙也

「信念と愛をもって行動しよう！」

監事 松島 美一
ブリテン 秋元 美晴
担当主事 菅原 歩

<今月の聖句>

古賀 健一郎

わたしたちの主イエス・キリストの父である神がほめたたえられますように。神はその豊かな憐れみにより、わたしたちを新たに生まれさせ、死者の中からのイエス・キリストの復活によって、生き生きとした希望を与え、また、あなたがたのために天に蓄えられている、朽ちず、汚れず、しぼまない財産を受け継ぐ者としてくださいました。

(ペテロの手紙 一 1章3.4節)

今月のひとこと

大人になってからの成長

菅原 歩

先日、リーダー時代の仲間と、その家族も含めてスキーに行きました。

何年も前から、複数の家族で定期的集まり、一緒に遊ぶ機会をつくっています。私と家族は、今では年に1~2回スキーをする程度ですが、友人家族

は頻りに滑っており、子どもたちも大人顔負けの上達ぶりです。その熱心さと向上心には、いつも感心させられます。



私の家族は、上の子が6年生、下の子が年長となり、ここ数年で少しずつ滑れるようになってきました。一方で私は、子どもに合わせて滑ることが多く、レッスンを受けているわけでもないため、ここ数年は大きな上達を感じられないまま

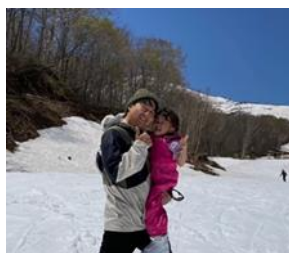
過ごしていました。

そんな中、友人の小学生の子どもが、ハの字でコブに入り、ゆっくりと何度も繰り返し滑っている姿を見ました。それを見て、過去に一度や二度挑戦しては怖さから諦めていたコブに、もう一度挑戦してみようという気持ちが湧いてきました。友人の子どもに滑り方を教えてもらいながら、久しぶりに自分の限界に挑戦している感覚を味わいました。年齢を重ねた今、無理はできませんが、失敗と成功の違いを考えながら何度も挑戦を重ねました。そして最後の一本で、最初から最後までリズムよく滑りきることができました。

スキーキャンプでリーダーとして滑り始めてから約20年。久しぶりに大きな成功体験を得ることができ、とても嬉しく感じました。

また、上の子どもいつの間にか同じようにハの字でコブに入れるようになっており、これからは一緒に練習していきたいと思っています。

子どもたちの成長の速さには驚かされますが、大人であっても、本気で取り組むことでまだまだ成長できるのだと改めて気づかされました。これからは、自分自身の成長を子どもたちとともに楽しみながら、日々を過ごしていきたいと思えます。



<2026年3月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F	
10名	メン 6名 メネット 0名 コメット 0名 ビジター 6名 ゲスト 2名 合計 14名	80% (メキップ2名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 現金 年度累計 切手 現金	0g 0円 0g 0円

<4月の行事>

W4W RBM

日	曜	時間	行事内容	場所
3	金	15:00-17:00	中央Yキックオフミーティング	中央Y
9	木	18:30-20:00	第一例会	中央Y
14	火	8:30-10:00	美しい港町横濱を作る会清掃活動	関内
22	水	11:30-12:00	第二例会	Zoom

第一例会報告

齋藤 宙也

日時：3月12日（木）18:30～20:05

場所：横浜中央YMCA812 教室

出席者：菅原、大高、古賀、齋藤、古田、秋元

ゲスト：篠崎美生子さん 古田島聡美さん、相澤優伽さん、許陽さん、平野絹絵さん、宇治川康江さん(Zoom)

ビジター：鈴木茂ワイズ(横浜つづき)、今城高之ワイズ(同)、

今月の聖句は、洗足学園の名前の由来を示す箇所、互いに足を洗い合う＝尊敬し合うという意味であることが説明された。

卓話は、明治学院大学教養教育センター教授の篠崎美生子氏により、「終わらない被爆—長崎の町と人—」という演題で行われた。

最初は、サバティカル休暇の時期に長崎市で暮らした経験を基に、長崎市の祭り等の行事や多宗教が併存している街並みについて解説があった。これだけでも勉強になるが、長崎の歴史を伝える酒屋が後継者不足で閉店するとか、被爆した外国人捕虜と地元の被爆者が交流を持った特別な防空壕や捕虜収容所が都市開発によってなくなるといった現実問題も紹介された。

その後、一口に被爆地長崎といっても、もともとの目標であった旧市街（南部）と、実際に投下された浦上（北部）では思わくが異なるという裏事情が紹介された。浦上はクリスチャンが多かったからか、隠れクリスチャンに天罰が下ったとか、逆に浦上側も、世界大戦という人間の罪を償うために犠牲になったという考え方が生まれたようである。被爆地としての浦上が強調される余り、放射線被害は旧市街側にも及んだ事実が希薄化されてしまうという問題点が指摘された。

被爆者の中で、正規の語り部はかなり少ない。しかし、被爆者でなかった人が、たまたま入院先で同室となった被爆者の被

爆体験を繰り返し聞くうちに、それがあたかも自分が体験したかのように置き換わるという現象も発生した。これは、自らの体験ならずとも、集団的、民族的な体験を民話化させ、あたかも浦島太郎のように、国民全体で共有でき、誰もが語れる共通の物語（いわば、「被爆太郎」）へと昇華させる可能性を示すものである。被爆者にもいろいろな立場があるが、この「被爆太郎」の物語を膨らませていくことで、旧市街と浦上などの分断を調和する道が開けないかという問題提起がなされた。

最後に、被爆者として半ば忘れ去られている華僑の被爆について言及があった。華僑が被爆体験を語らないのが問題ではなく、華僑の被爆体験を聞こうとしてこなかったことが問題であるとの指摘があり、今からでも被爆華僑の声を聞いていきたいという決意表明で締めくくられた。

長崎への原爆投下という史実は一般に知られているが、その内実として旧市街と浦上の分断であるとか、被爆華僑の存在という視点はなかった。長期休暇といっても、実質は研究のための休暇であり、それゆえに研究同然の活動を継続されたようである。頭が下がる思いであった。

例会終了後、恒例の記念撮影をして、無事に例会が終了した。参加者のほぼ全員が2次会に参加し、更に懇親を深めることができた。



篠崎美生子氏(会長の右隣り)を囲んで

第113回YMCA-Ys協議会報告

古田 和彦

○日時 2026年3月3日（火）19:00～20:00

○会場 横浜中央YMCA6階606号室

○出席者 20名 内横浜クラブ3名（佐竹博、菅原歩、古田和彦）

今回は金沢八景クラブが当番、開会礼拝司会は雲走和孝担当主事、その後の進行は大村悠金沢八景クラブ会長が行う。

1. 開会礼拝 聖書 テサロニケの信徒への手紙Ⅱ 2章 17節 祈祷 雲走和孝

2. 挨拶 横浜YMCA総主事 佐竹博
ワイズメンズクラブかながわ部部长 兵藤芳朗

3. 協議

① 国際・地域協力募金

柳沢絵里子スタッフから説明。2月末現在の募金額は、800万円の目標に対して、7,309,509円である。あとひと月、目標達成に努める。ワイズの協力をお願いする。具体的な使途先として、プロジェクト・ア・

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

チャイルド、ウクライナ支援、みどりクラブ、こども日本語クラブなどの説明があり、了承した。

4. 報告

- ① 2026/27 年度かながわ部体制について兵藤部長から報告。
部長：佐藤節子 直前部長：兵藤芳朗 次期部長：古賀健一郎 書記：坂口直樹 会計：古田和彦
 - ② Y-Ys 合同新年会について古田会計から報告。
・1/17(土) 18:00 から中華街廣東飯店にて開催。参加者 46 名。YMCA：佐竹総主事と担当主事 7 名、かながわ部：31 名、山下理事と東京地区 6 名、ゲスト：2 名、会費 5 千円で終わった。
 - ③ 横浜 YMCA 会員大会-ピースフォーラム-について古賀健一郎委員長作成の文書をもとに鈴木茂委員が報告。
・2/11(水・休) 10:00~12:00 とつかY とオンライン 参加者：会場 106 名、オンライン 60 名
・特別講演「戦後 80 年 原爆被災者が語る平和とは」青木清子氏。
 - ④ かながわ部富士山例会予定について兵藤部長から報告
・5/15, 16 予定であるが、バス代等の高騰により内容を変更する。5/16(土) 三浦Y 日帰りを実施。
・ユースとの交流を計画している。
 - ⑤ 部及び各クラブ報告 (部長、各クラブ)
・横浜クラブからは 3 月、4 月の例会案内、伊藤誠彦さん 2/6 死去の報告を行った。
 - ⑥ その他
・3/6 横浜 YMCA キャンプ ツグの集い
・3/14 ワワワコンサート
・3/20 日本 YMCA 同盟総主事週退任式(田口氏退任)
・担当主事：人事異動により一部変更
- 次回 第 110 回 日時：2026 年 6 月 2 日(火) 19:00~20:30
会場：中央 YMCA 担当：横浜つづきクラブ

伊藤誠彦さん追悼



古田 和彦

伊藤誠彦 (いとうまさひこ) さんは、2026 年 2 月 6 日天に召された。83 歳であった。2003 年 4 月 16 日に入会、22 年 10 か月のワイズ人生であった。奥様の裕美さんは誠彦さんの入会前から、横浜 YMCA が招聘した外国人のホームステイを引き受けてくださったり、横浜中央 YMCA の運営委員をして下さっていたので、たぶん、ご本人の退職を期に奥様のお誘いがあったのだろう。伊藤さんは、退職後は「株式会社金融・情報技術研究所」を起こして、企業の社員研修をしておられた。会計の専門家で、クラブの会計や部 (当時は湘南・沖縄部) の会計を歴任され、それまでのやりかたを会計ルールに則ったシステムに代えてくださった。ちなみに、現在かながわ部の会計通帳はみずほ銀行追浜支店であるが、これは、伊

藤さんのお住まいの近くの銀行であり、彼が部会計の時に設定したものである。横浜クラブの中心的メンバーとして長く活動され、2007/2008 年度、2008/2009 年度の 2 期にわたり会長を務められ、会の発展に寄与された。

2021 年 10 月、悪性胸膜中皮腫との診断を受けた。がんの一種で、何も治療をしなければ余命は数週間から 1 年、と宣言されたとのことであった。以来、ノーベル賞を受けた京都大学本庶佑教授が開発したオプジーボとの薬で「がん免疫療法」という治療を受けていたが、発病以来 4 年 4 か月の闘病の末、天に召された。この治療に関して、彼が、2025 年 8 月の横浜クラブブリテンに寄稿した文章の一部を紹介する。

現時点の医療は、長生きそのものが目的であり、それ以上でも以下でもない。家内をはじめ、周りの人々の善意に支えられ、何とか生かされているというのが現状である。問題は、治療の高度化とともに医療費が高騰していることである。オプジーボの点滴には 1 回 80 万円の医療費がかかる。我が国の医療制度は患者に優しいので医療費の患者負担は年齢・所得に応じて医療費の 1~3 割である。さらに、高額医療制度が整備され自己負担の月額支払限度額が設定されている。80 万円の医療費であっても、自己負担は 9 万円程度、70 万円以上が公的保険の財政負担になる。今まで通り延命だけを目的として治療を継続するか、治療を中断して死ぬことを受け入れ、これからの若い人たちのために少しでも公的保険財政負担の改善に寄与すべきなのか、自死につながる判断が要求されるだけに悩ましいところである。

几帳面で、誠実な伊藤誠彦さんの一面をよく表している文章であった。今は、痛み苦しみから解放され、安らかに憩っていることを信じている。

近況

田口 努



3 月末日をもちまして、日本 YMCA 同盟総主事を退任いたしました。横浜 YMCA での 40 年、同盟での 6 年、そして学生時代の仙台 YMCA ボランティアリーダーとしての 4 年を合わせますと、半世紀の間、YMCA 運動に関わることができました。この 50 年という節目を迎えられたのは、ワイズメンズクラブの皆様をはじめ、多くの会員、レイパーソン、スタッフ、そして諸先輩方との出会いと学び、そして温かいお祈りに支えられてのことと、心より感謝申し上げます。

活動をここまで継続できた原点の一つに、ボランティアリーダー時代に参加した「第 1 回フィリピンワークキャンプ (日本 YMCA 同盟主催、名古屋 YMCA 主管)」があります。当時、仙台のワイズメンズクラブから参加費のご支援をいただいたことで、多くの出会いと学びを得ることができました。その後も様々な活動へ派遣していただいた経験が私を育て、YMCA で働くきっかけとなりました。青少年の育成支援に注力して下さるワイズの皆様へ、改めて深く感謝いたします。

退職後も、YMCA で培った「人々に仕える信仰の実践」を地域社会で継続してまいります。4 月 1 日からは、長年理事を

務めておりました社会福祉法人「日本医療伝道会 衣笠病院グループ」の副理事長（常務理事）として週の数日を過ごすこととなりました。また、日本YMCA 同盟においても、当面の間は相談役として新総主事の伴走支援にあたる予定です。

さらに、身近なところでは教会役員や町内会の防災担当役員も引き受けることとなり、スケジュールの管理に苦心する日々ですが、福島県いわき市にある母教会のこども園理事長や、両親がお世話になった福祉法人の役員としての働きも、恩返しと思いて継続してまいります。93 歳になる母を訪ねる時間も大切にしながら、一日も早く新たな生活リズムを整え、ワイズの活動にも積極的に参加できるよう努めてまいります。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



担当主事 菅原 歩

気温が段々と温かくなり、日向を歩いていると汗ばむぐらいですが、日陰に入るとまだまだ冬の気温のように感じます。近所の草花は、梅の花が見頃を迎え、場所によっては桜がほころび始めるなど、春の訪れを身近に感じられるようになり、横浜公園では子どもたちが植えさせていただいたチューリップが咲き始めています。

子どもたちは新年度に向けて心の準備中です。笑顔が満開の日々になることを願っております。

- 3月
- 2月28日～3月1日 Y-LET
- 3月7日 横浜YMCA English Speech Contest
- 3月8日 発達・教育支援プログラム30周年記念講演会
- 3月14日 輪和Waコンサート
- 3月20日、21日 復興支援イベント～みんなでつながり・ともに歩もう～

第二例会報告

秋元 美晴

日時 ; 2026年3月25日(水)11:30～12:00

出席者 ; 秋元、大高、齋藤、菅原、古田

場所 ; ZOOM

古田副会長のお祈りに続いて開始。

1、行事予定の確認

3月25日(水)から6月27日までの確認

2、協議・報告事項

(1) 例会計画

・4月9日(木)第一例会の卓話

<美しい港町横濱を作る会の設立の経緯及び活動の意義>

・5月16日(土) かながわ部三浦YMCA 例会(当会の第一例会) *日帰りで三浦になる。

・6月11日(木) 総会準備

(2) W4W (Week for Waste) の対応について

当会は「美しい港町横濱を作る会」の清掃活動をW4W活動とする。今年は4月14日(水)。集合場所、時間は追って確認する。

(3) 第29回東日本区大会 ; 6/5(金)～7(日) 各人で申し込む。

(4) ブリテン4月号編集計画(別添参照) : 問題なし

(5) その他

・大高ワイズより会計の現状の報告があり、予算が余っているので、使途についての提案があり、訓盲院と水上学園に2026年5月ごろ支援金(各1万円)をお渡ししてはいかがかということが話し合われた。

4月例会プログラム

日時 : 4月9日(木) 18:30～20:00

場所 : 中央YMCA・オンライン

司会 古田ワイズ

1. 開会点鐘および挨拶.....齋藤会長
2. ワイズソング・ワイズの信条.....全員
3. 今月の聖句.....古賀ワイズ
4. ゲスト・ビジター紹介.....齋藤会長
5. 卓話.....「NPO 法人美しい港町横濱を作る会の設立の経緯及び活動の意義」
会長・加藤和之氏(株)アルティック代表取締役
同行者 : 森優子氏・篠田学氏・一瀬透氏
6. ビジネス・報告.....齋藤会長
7. Happy Birthday
8. 閉会点鐘.....齋藤会長

例会報告 : 古田ワイズ

5月の行事予定

日	曜	時間	行事内容	場所
16	土	10:00-15:00	第一例会(かながわ部三浦例会)	三浦Y
27	水	11:30-12:00	第二例会	Zoom
30	土		横浜YMCA 会員総会	

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 菅原歩にご連絡下さい。

メール sugahara_ayumu@yokohamaymca.org

電話 045-307-7556